

発表題目

メタファーとメカニズム的説明の関係について
—分子生物学における情報概念の考察から—

石田 知子(Tomoko ISHIDA)

慶應義塾大学通信教育部

生命科学では、様々な情報概念が説明に含まれている。情報概念は分子生物学の草創期からさかんに使われるようになり、遺伝メカニズムが分子レベルで明らかにされるとともに、遺伝情報概念も確立してきた。遺伝情報概念をめぐっては、これまで様々な哲学的議論がなされてきた。情報概念を欠かせないと考える論者が多い一方で、情報概念は本質的には不要だという者も存在する。

Sahotra Sarkar は後者の立場をとる哲学者の一人である。彼は分子生物学的説明をメカニズム的な説明として特徴づけた上で、情報概念は分子生物学に本質的には不要であると考えた。彼によれば、情報概念は理論的概念を装ったメタファーに過ぎず、説明を誤った方向に導いてしまいうるものである。

一見、この考えは正しいように見える。分子生物学の達成した還元的説明において、説明項となるのは専ら物理化学的な用語であるからだ。このとき、情報概念はせいぜい教育的・発見法的な価値を持つに過ぎず、理論的には不要なものとなる。

一方で、現在でも分子生物学において情報概念は使用され続けている。それどころか、細胞間コミュニケーションやクロストークなど、新たな情報に関連した概念が登場してきている。本発表では、分子生物学における情報概念のメタファーとしての役割を再考し、メカニズム的説明との関係を明らかにしたい。